

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 からふる		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達状態に応じた集団での支援を行なっていること。	集団の中でルールや手順を理解して取り組んだり友だちと楽しく関わる経験を積める場となるよう支援しています。	子どもの発達段階に応じた活動内容を提供していきます。
2	人員配置を満たしたうえで、作業療法士・言語聴覚士などを配置していること。	保育士、作業療法士、言語聴覚士などが連携をとりながら情報共有を行い、チームでの支援に取り組んでいます。	職員の専門性を高めるため、支援方法やアプローチを学べる研修へ参加します。また、ケース会議で具体的な支援方法について職員間で意見交換を行い支援に取り入れていきます。
3	毎日の活動に、手と指先遊び、お口・言葉遊びを取り入れていること。	作業療法士と言語聴覚士が中心となり、職員全員でプログラムを作成しています。	手と指先遊びの課題を充実させ、一人ひとりの困りごとに応じた支援を行います。また、生活の中で言葉を育てていけるよう、楽しめる活動を通じて、子どもの興味を深める環境を作ります。そして、子どもが「もっとやりたい!」と自発的に表現する気持ちを大切にしていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が不足していること。	「保育所や幼稚園等との交流や地域の子どもと活動する機会」を活動として提供できていません。	散歩や地区市民館などの公共施設利用時に地域のこどもと会う機会があります。今後、交流の方法などを検討していきます。
2	保護者同士の交流機会がないこと。	参観は行っていますが、保護者同士の交流の時間は設けていません。	参観時に交流会の場を設けるなど改善の工夫が必要です。保護者の皆さんのニーズに応じた開催方法を検討していきます。
3	事業所が3階にあるが、エレベーターが設置されていないこと。	階段での移動となり、転倒などのリスクが高まる可能性があります。	必要場合は職員が階段の上り下りを補助し、より安全に配慮いたします。